

第 11 回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会

日時：令和 7 年 10 月 6 日（月）

午後 5 時 30 分～7 時

会場：塩尻志学館高校 会議室

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 会議事項

(1) 「第 10 回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会」まとめ

(2) 学びのイメージについて

(3) 想定募集学級数・開校年度について

(4) その他

4 諸連絡

次回の予定

【日時】 調整中

【場所】 調整中

5 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

（目的）

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」（以下、「懇話会」という。）を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

（会議事項）

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- （1）学校像、教育方針等に関する事
- （2）校地・施設・設備等に関する事
- （3）管理運営等に関する事
- （4）教育内容等に関する事
- （5）その他、県教育委員会が必要と認める事項に関する事

（構成員）

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者（校長、教職員等）、地域の代表（自治体関係者、産業界の代表等）、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

（開催期間）

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

第11回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

(敬称略)

	区分	氏名（座長○）	所属等
1	自治体	石坂 健一	塩尻市 副市長
2		○佐倉 俊	塩尻市教育委員会 教育長
3		大池 昌弘	山形村教育委員会 教育長
4		百瀬 司郎	朝日村教育委員会 教育長
5		太田 幸一	塩尻市産業振興事業部先端産業振興室 室長
6	産業界	小松 稔	塩尻商工会議所 会頭
7		林 修一	塩尻市観光協会 会長
8	学識 経験者	渡邊 修	信州大学農学部農学生命科学科 准教授
9		小林 敏一	エプソン情報科学専門学校 学校長
10	地域	中島 紀彦	セイコーエプソン株式会社P総務部 部長
11		松本 宏隆	セイコーエプソン株式会社P事業戦略推進 部長
12		横山 暁一	NPO法人MEGURU 代表理事
13		斎藤 政一郎	松本地域振興局 局長
14	同窓会	赤羽 誠治	塩尻志学館高等学校同窓会 会長
15		霜田 美奈	田川高等学校同窓会 会長
16	PTA	桃井 則美	塩尻志学館高等学校PTA 会長
17		堀内 みどり	田川高等学校PTA 会長
18		北沢 寿明	東筑摩塩尻PTA連合会 顧問
19	小中学校 関係者	吉越 秀之	東筑摩塩尻校長会 代表 （桔梗小学校 校長）
20		黒沢 幸喜	東筑摩塩尻校長会 代表 （丘中学校 校長）
21		永田 寛尚	松本養護学校 校長
22	再編 対象校	熊谷 のい	塩尻志学館高等学校 生徒代表
23		中舎 水鏡莉	塩尻志学館高等学校 生徒代表
24		浅川 夢羅	塩尻志学館高等学校 生徒代表
25		小岩井 一	田川高等学校 生徒代表
26		鈴木 脩也	田川高等学校 生徒代表
27		池田 葵	田川高等学校 生徒代表
28		堀内 雅司	塩尻志学館高等学校 校長
29		今井 直哉	塩尻志学館高等学校 教職員
30		青木 裕士	田川高等学校 校長
31		笠原 勇貴	田川高等学校 教職員

事務局					
塩尻志学館高等学校		田川高等学校		長野県教育委員会	
木下 博史	教頭・事務局長	内川 源弘	教頭・副事務局長	原 多恵子	高校再編推進室 主幹指導主事
今井 直哉	新校準備委員会構成員（長）	笠原 勇貴	新校準備委員会構成員（長）	荻原 洋平	高校再編推進室 主任指導主事
寺澤 顕孝	新校準備委員会構成員（副）	料治 正和	生徒指導主任	宮嶋 直美	高校再編推進室 主任指導主事
跡部 徹	生徒指導主任			佐久 浩信	学びの改革支援課 主任指導主事
				貝野 宗司	高校再編推進室 主事

◆塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会

「学びのイメージ」 検討手順

新しい学校の形

学びのイメージ

今ココ

新しい学校の中身

(第9～11回)

- ・活用する校地・校舎 (第9回)
- ・統合方法 (10回)
- ・想定する募集学級数
- ・開校時期

(第4～8回)

- ・学びの柱
- ・どんなことができる学校
- ・特色あるカリキュラム
- ・魅力づくり

- ・育てたい生徒像
- ・目指す学校像
(第4～8回)

新しい学校が目指す姿

- ・懇話会趣旨説明 (第1回)
- ・全国の先行事例 (第2回)
- ・2校の学び紹介 (第3回)
- ・視察報告 (第4回)

共通理解



第 10 回 塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日 時	令和 7 年（2025 年） 7 月 29 日（火） 午後 5 時 30 分から午後 7 時まで		
場 所	塩尻総合文化センター 1 階講堂		
出 席 （敬称略、 ◎座長）	石坂 健一、◎佐倉 俊、太田 幸一、小松 稔、中島 紀彦、草間 英樹（代理）、赤羽 誠治、霜田 美奈、桃井 則美、堀内みどり、北沢 寿明、吉越 秀之、中舎 水鏡莉、浅川 夢羅、小岩井 一、鈴木 脩也、堀内 雅司、今井 直哉、青木 裕士、笠原 勇貴 以上 20 名		
欠 席 （敬称略）	大池 昌弘、百瀬 司郎、林 修一、渡邊 修 小林 敏一、松本 宏隆、横山 暁一、黒沢 幸喜 永田 寛尚、熊谷 のい、池田 葵、以上 11 名	傍 聴	7 名 報道 2 社
事務局	塩尻志学館高校：木下教頭（事務局長）、今井教諭、堤教諭、高山教諭 田川高校：内川教頭（副事務局長）、笠原教諭 県教育委員会：原主幹指導主事、荻原主任指導主事、佐久主任指導主事		
会議事項	(1) 第 9 回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ (2) 学びのイメージについて (3) 統合方法について (4) 想定募集学級数・開校年度について		
当日資料	第 10 回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会資料		
主な内容（⇒：事務局回答 / →：県教委回答 / ➡：座長まとめ）			
(1) 第 9 回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ 質問、意見なし			
(2) 学びのイメージについて 前回の懇話会での意見を基に、レイアウトを工夫し、内容を端的にまとめた。新校のキャッチフレーズは「学びを選び、塩尻で挑み、未来を拓く総合学科」を考えている。 【質問・意見】 ・「学びの三本柱」の内容の①と②が 5 ページと 6 ページで異なっている。 ⇒数字と内容が一致していなかったので修正したものが 6 ページとなる。 ・①「多彩な選択科目」と②「ワクワクする学び」は分ける必要がない。勉強の中に「人としての学び」を入れるべき。 ⇒人としての学びを入れられるように再度検討していく。 ・「体育×情報」を「e スポーツ」とするのは限定的な考え方であり、誤解を生みやすい。表現方法を検討すべき。 ⇒検討したい。 ・細かいことを説明したアクションプランを示してほしい。 ⇒これまでワークショップを開催したうえで「学びのイメージ」を作っている。アクションプランについては検討する。 ・I C T 環境の整備について詳しく書いてほしい。 ⇒具体的なものをすべて書き込むことはできないが参考にしたい。 ・子どもたちの学びを見届ける先生たちを育ててほしい。 ⇒生徒と職員全員で新校を立ち上げるので、先生を育てるという視点もあるべき（校長回答）。意見を反映させていく。			
(3) 統合方法について 現行の教育課程を継続しながら、新校の教育課程についても時間的余裕をもって検討・整備することが可能であり、生徒・保護者にとっての混乱も少ないことなどから「年次統合」としたい。 【質問・意見】 ・開校年度には両校に 2・3 年生がいて、新校に 1 年生がいるという理解でよい。 →よい。生徒会や部活動については今後、意見交換をしていく。次回、年次統合の移行状況を図で示す。 ➡統合方法については「年次統合」とする。			
(4) 想定募集学級数・開校年度について 令和 15 年 4 月開校を目指す。6 学級程度の募集を想定している。仮に来年度から基本計画に着手した場合、しゅん工は令和 17 年度中の見込み。急速に進行する少子化の中で、地域と連携した新校での魅力ある学びをできる限り早期にスタートさせるためには、開校時期をできる限り早める必要がある。開校としゅん工はずれるが、仮設校舎を効果的に併用し、既存校舎の改築、改修を段階的に行いながら、新校舎を順次使用していくことにより開校時期を早める方法を考えている。 【質問・意見】 ・民間感覚だとしゅん工までのスパンが長い。既存のものを活用しながら、できる限り早期に新校をスタートさせてほしい。			

→NSD のコンセプトに則り他の新校も進めている。学びのイメージをベースに手順を踏みながら進めていく。学びを維持しながら進めていく都合上、ある程度の時間がかかるのは仕方ない。一方で、進む少子化にも対応すべく、ある程度の規模で新校をスタートさせたい。

- ・県外にも同じような状況はあると思うが、視察は行ったのか。

→それほど行くことができていない。

- ・知恵を絞り、気持ちを持って取り組んでもらいたい。教育関係者が誇れるようなものを作っていただきたい。

→Core 塩尻のようにフレキシブルな施設を作る計画に基づいて進めている。「学びのイメージ」を基に生徒や先生、地域の方と施設整備基本計画の段階から設計のパートナーにも入っていただき、生徒や先生、地域の方の意見も伺いながら作り上げていく。したがってある程度時間はかかってしまう。開校の時点で新校の新しい学びを象徴するものを1つ作ってから開校したい。

- ・テクノロジーは数年後には大きく変化している。8年後を考えるのであれば「DX」や「スマート農業」という言葉も無くなっているだろう。そういう点から使う言葉についても見直す必要がある。現時点での決定に固執することは避けたほうがよい。

→普遍的な部分も大事にしつつ考えていきたい。

- ・新校にICTといったテクノロジー分野を取り入れていくのであれば、この時間軸でデザインするのは時間が経ちすぎ、困難である。また、建築方法については学校以外の施設の手法も参考にしてほしい。

→施設担当と共有をし、再検討し、あらためて示したい。

- ・第一期再編では話し合いから完成まで何年かかったのか。校舎は新築か改修か。

→第一期は第二期とは進め方が異なる。現在の懇話会のようなものはなかった。

- ・体験入学の希望者が年々減っている。なるべく早く新校を作してほしい。

- ・7クラスでも8クラスでもしっかりと生徒を呼び込めるような学校にしてほしい。また、生徒数の維持も前提に、学校の設計をしてほしい。

■学びのイメージとリンクすると思う。想定募集学級数と開校年度について事務局で再度検討してほしい。

その他

【次回懇話会】

- ・期日：10月頃（予定）
- ・日時、内容等の調整が済み次第、開催通知にてお知らせする。

塩尻総合学科新校統合イメージ

○年次統合

全日制	3年前	2年前	1年前	開校	1年後	2年後	3年後
塩尻志学館	3年						
	2年	3年					
	1年	2年	3年	開校年4月募集停止			
		1年	2年	3年			
田川			1年	2年	3年		
	3年						
	2年	3年					
	1年	2年	3年	開校年4月募集停止			
新校			4月開校	1年(6)	2年(6)	3年(6)	
					1年(6)	2年(6)	3年
						1年(6)	2年
							1年

○開校年度に新校の1期生が入学し、同時に塩尻志学館高校と田川高校が募集停止となります。



○同年度には、新校の校地（現 塩尻志学館高校）に、新校1期生と在学中の2年生と3年生が、田川高校の校地に田川高校の2年生と3年生が通学します。



○翌年度には新校の2期生が入学し、それぞれ3年生のみとなり、最後の卒業生となります。

- ・年次統合の場合は、田川高校と塩尻志学館高校の生徒は入学した学校の校地でそれぞれの学校の生徒として卒業します。
- ・統合が完了するまで新校、塩尻志学館高校、田川高校の3校がそれぞれの校地で存在することになります。

当面の課題

- ・生徒間の交流（生徒会、部活動 等）
- ・両校の特色の更なるアピール
- ・積極的な情報発信
- ・地域連携の強化

学びを選び、塩尻で挑み、未来を拓く総合学科

育てたい 生徒像

- 自分の軸を持ち積極的に創造し、探究しチャレンジする生徒
- 豊かな心を持ち他者を尊重できる生徒
- 粘り強く学び続け、自分の道を切り開き、世界に羽ばたく生徒

前回（第10回）
懇話会資料

目指す 学校像

- 多様な経験、学び、人との出会いを通して一人一人の可能性を広げられる学校
- 地域を学びのフィールドとして地域との共創を目指す学校
- 生徒が主人公となり、社会と生徒とともにつくり成長し続ける学校

学 び の 3 本 柱

①多彩な選択科目

人生を豊かにする学びがここにある

【表現・感性を学ぶ】

- ▶音美書・演劇などを通じた総合芸術、アーティストとの創造活動

【言語を学ぶ】

- ▶フランス語、中国語、ハングルの学びから始まる国際交流

【ICT 活用を学ぶ】

- ▶情報発信、プログラミング、マルチメディア

【生活を学ぶ】

- ▶農業、商業、家庭、福祉などの人生を豊かにする科目

②ワクワクする学び

教科を越えて広がる学びが新しい
アイデア・価値を生む

【文 $\square$ 理 $\square$ 融合】

- ▶学際的な学びの系列

【農業 $\times$ 福祉 $\square$ 】

- ▶福祉施設、高齢施設との連携、園芸セラピー、アニマルセラピー

【農業 $\times$ 食 $\times$ ビジネス $\square$ 】

- ▶ワイン商品開発、マーケティング

【体育 $\times$ 福祉 $\square$ 】

- ▶ユニバーサルスポーツ

【体育 $\times$ 情報 $\square$ 】

- ▶e スポーツ

【情報 $\times$ 農業 $\square$ 】

- ▶スマート農業 ほか

③地域連携キャリア教育

地域に開かれた学びの場で地域とつながる

【産学民連携】

- ▶塩尻市共創共学プラットフォームや地元企業・DX センター(Core 塩尻、総合教育センター等)との連携、シオジリ学(地域課題解決型学習)の推進、ワインバレー参画

【小中高連携】

- ▶小中学生との合同ゼミ、探究活動の継続、高校生による学習支援

【開かれた学び】

- ▶ブドウ収穫体験講座、地元の専門家・農家による公開講座、車座の対話

のびやかに学ぶ環境

- ❖校外学習や個別探究、ICT を活用した多様な学びを支える柔軟な教育課程の中で、生徒が自ら学びをデザインできるゆとりある時間割を編成する。

- ❖地域交流や地域連携に対応できる快適で柔軟な学びの空間を整備する。

クラスを越えて出会える活動の機会、活動の場所がある～生徒が主人公「私は私の人生の当事者」～

- ❖異学年交流により多様な視点を育み、思いやりや協調性、自ら考え行動する力を育てる。
- ❖仲間と支え合い、失敗からも学び続けられる温かな雰囲気を整備する(職員サポーターズシステム)。

学 び を 支 え る 仕 組 み

地域の方々との共同開発

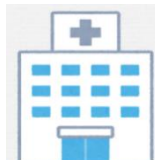
新校が生涯学習の出発点

地域共学共創コンソーシアム

各種学校



医療・福祉関係



地元企業・商工会



自治体



研究機関



学びを選び、塩尻で挑み、未来を拓く総合学科

今回（第11回）
懇話会資料

育てたい 生徒像

- 自分の軸を持ち、自ら課題を見つけ、価値を創り出す挑戦的な生徒
- 豊かな心を育み、他者を尊重し、地域社会にも貢献できる生徒
- 粘り強く学び続け、自分の道を切り開き、地元の未来を支える生徒



目指す 学校像

- 多様な学びを通じて、自分らしさを伸ばし、心豊かなウェルビーイングを実現する学校
- 地域を学びのフィールドとして地域との共学共創を目指す学校
- 生徒が主人公となり、社会と生徒とともに作り成長し続ける学校

学 び の 3 本 柱

① ワクワク！ 多彩な学び

人生を豊かにする学びが
ここにある

【表現・感性を学ぶ】

- ▶音美書・演劇などを通した総合芸術、アーティストとの創造活動

【言語を学ぶ】

- ▶フランス語、中国語、ハンガルの学びから始まる国際交流

【ICT活用を学ぶ】

- ▶情報発信、プログラミング、マルチメディア

【生活を学ぶ】

- ▶農業、商業、家庭、福祉などの人生を豊かにする科目

② ひろがる！ 未来と探究

教科を越えて広がる
“未来型探究サイクル”

【農業 🌾 × 福祉 🏠】

“収穫から広がる、笑顔の福祉”



【福祉 🏠 × 体育 ⚽】

“誰もが楽しめるスポーツ体験”



【体育 ⚽ × 情報 💻】

“ゲームで未来を創る”



【情報 💻 × 農業 🌾】

“ICTで拓く農業の未来”

③ つながる！ 地域とキャリア

地域に開かれた学びの場で
地域とつながる

【産学官民連携】

- ▶「シオジリ学」
⇒地域課題解決型学習
- 「起業家育成プログラム」
⇒地域の未来を担う人材育成、事業創出
- 「ワインバレー構想」
⇒地場産業との連携

【小中高連携】

- ▶小中高一貫カリキュラム
- 【開かれた学び】
▶ブドウ収穫体験、地元の専門家・農家による公開講座、車座の対話

のびやかに学ぶ環境

学 び を 支 え る 仕 組 み

- ❖主体的な学びを促すゆとりある時間割と柔軟なカリキュラムで、多様な学びを実現。深い学びを通じて確かな学力を育み、大学等進学へとつなげる。
- ❖地域交流や地域連携に対応できる快適で柔軟な学びの空間を整備する。
- クラスを越えて出会える活動の機会、活動の場所がある～生徒が主人公「私は私の人生の当事者」～
- ❖異学年交流により多様な視点を育み、思いやりや協調性、自ら考え行動する力を育てる。
- ❖仲間と支え合い、失敗からも学び続けられる温かな雰囲気を整備する（職員サポーターズシステム）。

地域の方々との共同開発

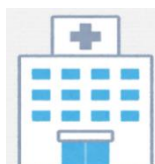
新校が生涯学習の出発点

地域共学共創コンソーシアム

各種学校



医療・福祉関係



地元企業・商工会



自治体



研究機関



(第11回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会 資料)

想定募集学級数・開校年度について(案)

想定募集学級数・開校年度について(案)											案③	案②			案①
11	学校名	新校名(仮)	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
			2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036
	塩尻志学館	塩尻総合学科新校	5	5							(6)	(6)	(6)	(6)	(6)
	田川		5	4											
当年度高校入学対象者数(前年度末中学校卒業者数)(注1)			3895	3694	3681	3642	3577	3496	3522	3462	3385	3186	3074		
前年増減(▲=減)			0	▲ 201	▲ 13	▲ 39	▲ 65	▲ 81	26	▲ 60	▲ 77	▲ 199	▲ 112		
入学年度の対象学年					中学校 3年生	中学校 2年生	中学校 1年生	小学校 6年生	小学校 5年生	小学校 4年生	小学校 3年生	小学校 2年生	小学校 1年生		
(注1)2025年度学校基本調査による数(旧11通学区)					プロポーザル	基本計画	基本設計	実施設計	工事(6年)						
					設計(4年)										

6	最長	開校時期	開校と竣工の関係	想定されるメリット	想定されるデメリット
		案①(R18)	開校＝竣工	・全て完成した状態で一期生が入学できる見込み。 ・新しい学びが新校舎を使いスタートできる。	・開校は10年後になる。
		案②(R15)	開校の3年後に竣工	・開校時、新校舎の一部が完成見込み。 ・一期生は完成したところから順次使用可能になる。 ・新しい学びが新校舎を使いスタートできる。	・工事は継続される。
	最短	案③(R14)	開校の4年後に竣工	・開校時期が早い。 ・一期生は2～3年次に新校舎の一部が使用可能となる見込み。	・開校時、新校舎の使用は難しい。 ・工事は継続される。

※いずれも順調に進んだ場合の想定であり、進行の規模や設計方針、建設予定地の条件、今後の物価動向などにより、工期は大きく変動する可能性がある。

前提

- 第2期再編対象校は全てNSDのコンセプトに基づき計画されている
- NSDの施設整備には概ね、設計4年、工事6年を要する。特に設計はNSDの要
- 学びを継続しながらの工事となる

考える上でのポイント

- 新しい学びを実現するためには新しい校舎が必要
- 開校後、学級数を少なくとも3年は維持したい
- 一期生の入学時の期待に応えたい

塩尻志学館高校

大体育館
H14 1389㎡

格技室
S46 250㎡

小体育館
H2 901㎡

音楽室兼
大講義室
H14 344㎡

特別教室棟
H28 1953㎡

農業実習棟
S56 300㎡

混合教室棟
S59 691㎡

実習管理棟
H13 232㎡

第3校舎
S39 972㎡

農産加工実習棟
S53 454㎡

第1校舎
S36 3012㎡

図書館視聴覚室
H4 448㎡

総合学科棟
H11 630㎡



NSDプロジェクトとは【NSDの背景】

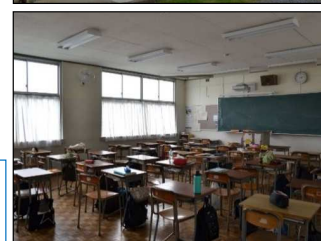
学校施設の現状 → 画一的な学習空間で、老朽化も激しい

1950年 文部省（現文部科学省）・日本建築学会
「鉄筋コンクリート造校舎の標準設計」を作成



長野県の県立学校でも、似たつくりの校舎が多数存在

しかし、この70年ほどの間に社会は大きく変化



教室棟（1968年建設）

施設の老朽化による学校施設の適切な更新を進めると共に
「学び」や「学び方の変化」に伴う学校の「つくり」や「つくり方」を見直し
これからの時代 これからの学びにふさわしい学校空間の整備が必要

県立学校学習空間デザイン検討委員会

最終報告書「長野県スクールデザイン2020」（2020年8月）

これからの時代：変化が激しく予想困難な時代

1 どんな時代や状況にも対応できる、フレキシブルな空間

これからの学び：主体的な学び、探究的な学び／個別最適な学び、協働的な学び

2 いろいろな学び・さまざまな人数 ⇒ 多様性をもつ学びの空間

学習空間の捉え直し：生徒・教職員・地域にとって必要な要素を包含した施設

3 「学習」・「生活」・「執務」・「共創」という4つの要素に整理

空間の「質」：子どもたちが生き活きと過ごす空間

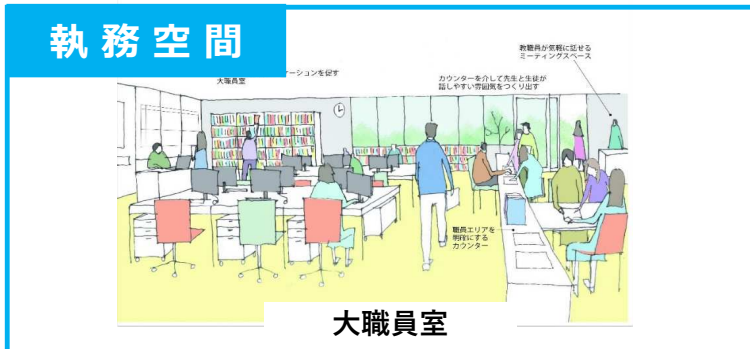
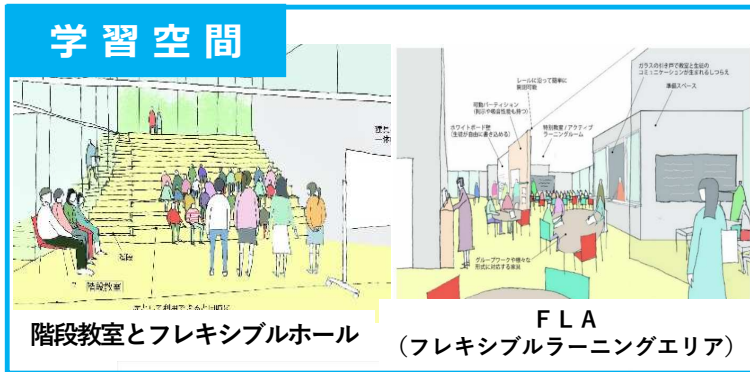
4 機能性と快適性、空間の「重ね使い」、屋外とのつながり、家具などの重要性

地域と共生する学校：地域にとってのかけがえのない拠点施設

5 県の多様な自然環境・地域性を考慮、地域施設との連携や役割の分担を検討

県立学校学習空間デザイン検討委員会

最終報告書「長野県スクールデザイン2020」（2020年8月）



NSDプロジェクト

「学校づくり・ひとづくり・地域づくり」

NSDプロジェクトの理念体系

【NSDの目的】

『学校の環境整備を通じて 個人と社会のwell-beingの実現を支援』

長野県教育委員会が目指しているのは、『個人と社会のwell-beingの実現』すなわち、一人一人の多様な幸せとよりよい社会の実現。

NSDは、多様な価値観を持つ誰もが、激変する予測不能な社会の中でも柔軟に対応しながらよりよく生きていけるために、学びの質の向上と学び続ける個人と社会を支援していきます。

【NSDの方針】

『学びと空間の一体的改革』

NSDは、学びの質の向上と学び続ける個人と社会を支援するため、一人一人の多様な教育的ニーズに応える学びと空間の一体的な改革を進めています。空間については、児童生徒や教員がいきいきと活動でき、地域の方々にとっても学びや交流の拠点となる豊かな空間を整備していきます。

【NSDの方法】

『空間デザイン』『確かなプロセス』『共学共創』

「長野スクールデザイン2020」の提言をもとに空間デザインを行いつつ、また、ワークショップ等を通して、建築専門家と使用者となる学校や地域が意見交換を行い、使用者や建築専門家が基本計画の策定から関わるプロセスを大事にしています。

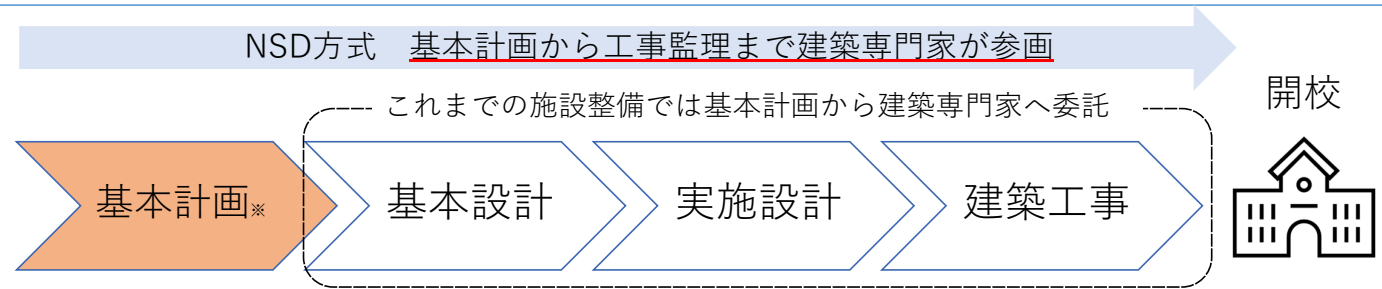
NSDを通して学校と地域が共に学び、新しい社会を共に創る、これからの時代にふさわしい学校づくりのプロジェクトを進めています。

【NSDの目的】
学校の環境整備を
通じて個人と社会の
well-beingの実現を支援

【NSDの方針】
学びと空間の一体的改革

【NSDの方法】
空間デザイン
確かなプロセス 共学共創

NSDプロジェクトによる新校開校までの整備手順



※基本計画：設計条件を整理し、配置や平面計画、空間の構成、施設の機能・性能、コスト、スケジュール等を検討した施設整備の骨格となる方針

これまでの施設整備

- 基本計画について、県教委及び営繕部局で策定 ⇒ 画一的な施設整備
- 基本設計から建築専門家が参画 ⇒ 意見の反映できる幅がせまい

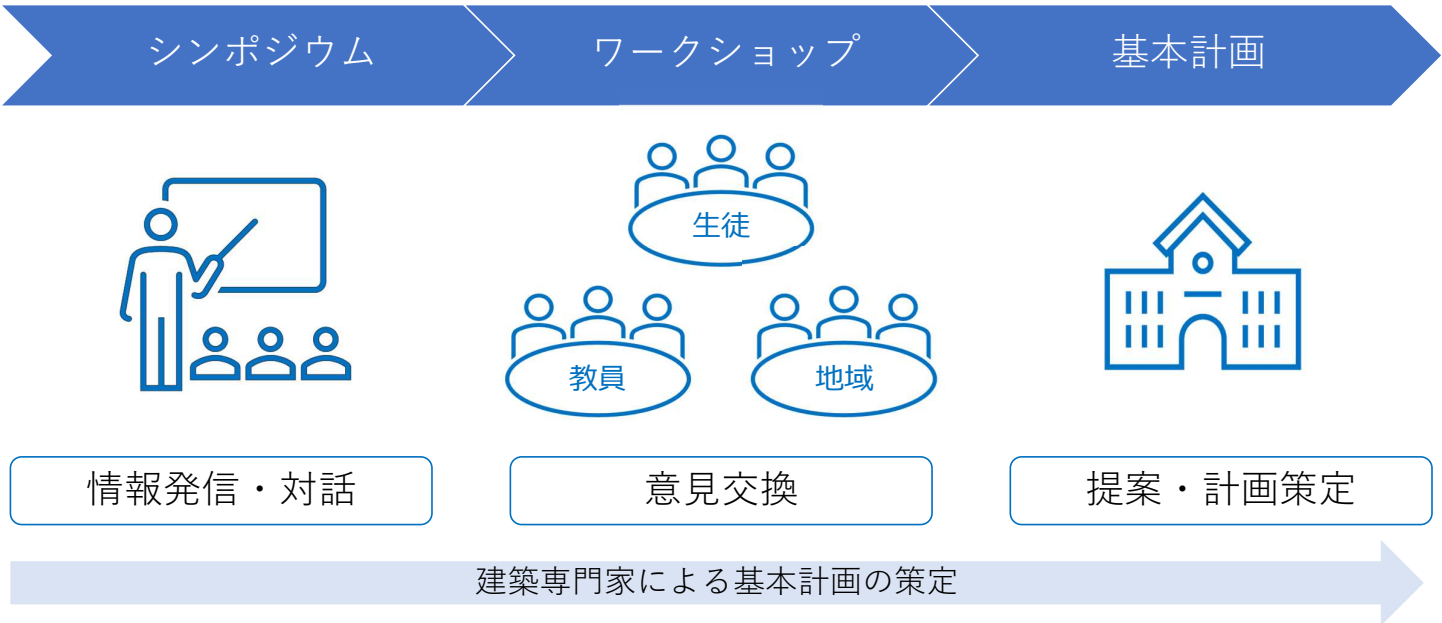
NSDの施設整備

- 学校づくりの骨格を決める基本計画から建築専門家が参画し、生徒、教員、地域と意見交換
 - 設計者が建築条件を早い段階から整理し、最適な配置計画及びコストコントロールを検討
- ⇒ **生徒、教員、地域の意見を設計に反映しやすく、最適な建築計画とコストで学びと空間の一体的改革を推進できるプロセス！**

基本計画策定プロセス

生徒、教員、地域と意見交換を重ね、建築専門家により基本計画へ反映

シンポジウム、ワークショップ等により、多様な意見を基本計画に反映



2. 基本計画の方針、学習空間デザインの検討

2-2. 新しい学びに対応した空間計画－1

■内部空間の計画-①ラーニングパサージュ

○生徒同士、先生一生徒間の交流を促し、学びや表現の舞台となるワンルーム

現状の立志館高校は、複数の校舎のあいだを開放渡り廊下で行き来する運用となっており、移動時の気温変化が著しい状況である。そこで、授業間移動の多い総合学科の特性を考慮し、校地中央に南北に長い2層の動線空間「ラーニングパサージュ」を配置し、新旧の校舎を内部空間でつなぐ計画とする。

ラーニングパサージュは動線を処理する廊下としてだけではなく、教室でも廊下でもない第3の学びの空間としての利用を想定し、幅8m程の幅広のワンルーム空間とする。

教室から遠征して小さめの講座を開いたり、授業や探究の成果物を掲示したり、各専門教科での制作物を展示したりするなど、新校の様々な活動に満ちた場所となることを想定している。

総合学科では1年生の間に各々が進路について考え、2・3年生で選択した進路の学びを深めていく。ラーニングパサージュでは1年生が2・3年生の学びに早期に出会い、各自の将来について考える助けとなる。



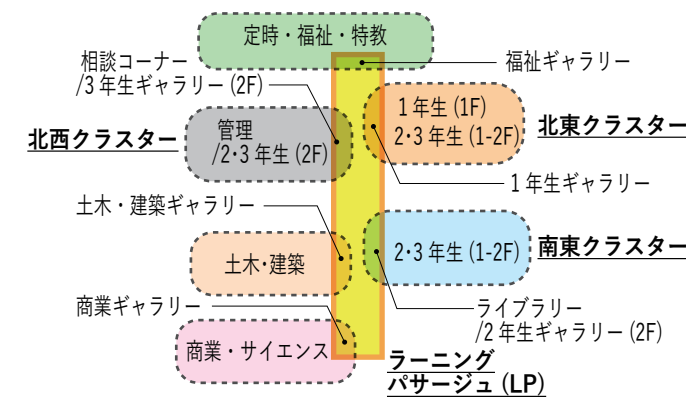
自習のためのカウンターデスクなどが充実した2階のイメージ



大きなワンルームの中に2階床が浮かぶような空間構成

○新旧をつなぎ、さまざまな専門科をつなぐアクティビティの骨格

既存棟も含めた専門系列ゾーンや新築の教室ゾーンがそれぞれクラスターを構成し安定した学びの場を確保するとともに、ラーニングパサージュがそれらを強力につなげ、学生や先生の交流の軸となる。各クラスターとラーニングパサージュの接点は各学年の活動や探究成果を発表する「学年ギャラリー」や、各系列の学びを披露する「系列ギャラリー」とし、先生の居場所を含めた相談コーナーも併設するなど、多様な学びがそれぞれで孤立せず、コミュニケーションによる学びの深化を促すことを重視する。



ラーニングパサージュを軸として多様な学びがつながる



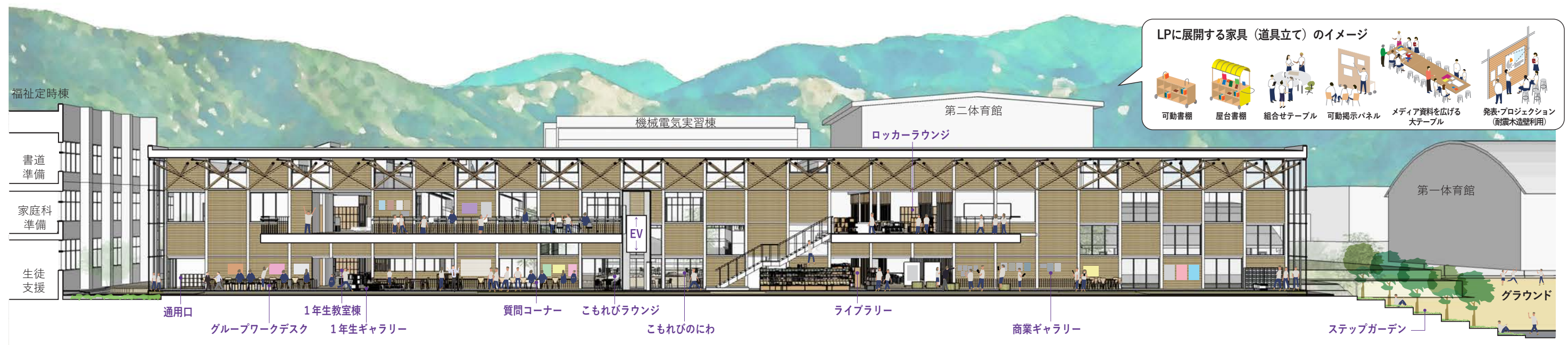
1年生ギャラリーや大職員室が顔を出すラーニングパサージュ1階



専門系列の学びが展示される土木・建築ギャラリー

○拡張したメディアセンターとしてのラーニングパサージュ

書架の並ぶライブラリーをラーニングパサージュに面して配置し、閲覧スペースや選書コーナーをラーニングパサージュに展開する。また、系列ギャラリーには専門の関連図書を並べることで、ラーニングパサージュ全体がメディアセンターとして生徒たちに一段深い学びの機会を提供する。アクティビティに対応した家具やスペースをワークショップなどにより検討し、個別最適～協働の多彩な学びのシーンが展開するようにする。開校後数十年にわたり使われる空間として、ICT環境の進展など様々な変化を受け入れられるよう、通風や採光といった基本的な空間の質を担保した強い骨格となるよう設計を進める。

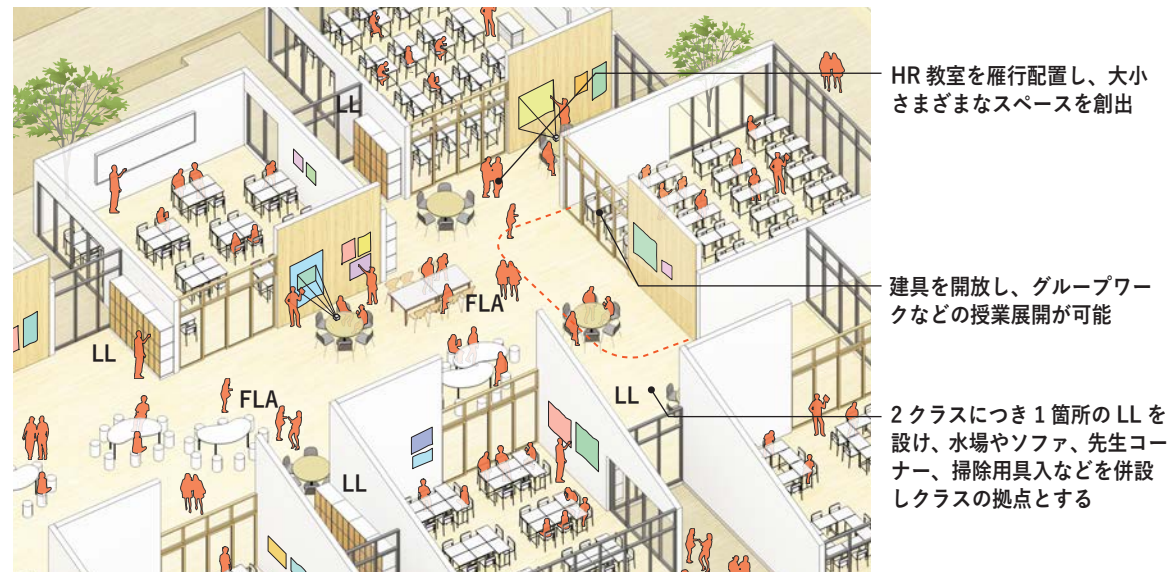


2-2. 新しい学びに対応した空間計画－2

■内部空間の計画-②教室まわり

○ESDの基礎を学ぶ”家”のような1年生教室ゾーン

必修科目がメインの1年生は、ホームルームとなる普通教室が主な居場所となる。ESDの基礎を落ち着いて学べるよう、他学年の通り抜け動線とならない北西クラスターの1階に配置し、安定した学習・生活環境を確保する。各ホームルーム教室が独立し、教室と連続して学びの場所をつくるFLA（フレキシブル・ラーニング・エリア）を教室の周りに十分に確保する。広々としたFLAや外部テラスまで活用し、様々に拡張した学びのかたちを実践することが可能な空間を計画する。



他学年の通過動線とならず、落ち着いた学習環境の1年生ゾーンのイメージ

○多様な選択科目に対応し、回遊動線でつながる2・3年生教室ゾーン

選択科目がメインとなる2・3年生は、各々の時間割に応じて移動する学習スタイルとなるため、学年毎のまとまりは作りすぎず、2階を中心に新校舎全体に教室を配置する。LP沿いやFLAには学年のLLとGGを散りばめ、生徒たちの生活・発表の拠点を確保する。十分なFLAを確保し、2室をつなげた授業に対応可能な多目的教室を複数設置する。2・3年生の専用フロアである2階は、LPを動線の中心としつつ、北東・南東クラスターの東側をブリッジでつなぎ、機械・電気実習棟へのアクセスも確保した回遊式のプランとする。



2・3年生の教室群が回遊動線でつながる2階のイメージ

■内部空間の計画-③ロッカーラウンジ

○総合学科の学びを支え、居場所にもなるロッカースペース

授業ごとに異なる教室間を動く総合学科では、普通科高校のように各教室内に生徒のロッカーを設置するのではなく、教室外の共用部にロッカーを適切に計画する必要がある。新校では、このロッカースペースを生徒の居場所や交流拠点となるようにまとまりのある空間＝ロッカーラウンジとして、共用部の要所に配置する。クラス単位の学びが多い1年生は2クラスで1カ所程度のロッカーラウンジを、選択科目が多様になる2・3年生は4クラスで1カ所程度のまとまりのあるロッカーラウンジを計画する。ロッカーラウンジには学年ギャラリーを併設し、学びの成果をディスプレイ出来る設えを検討する。



2・3年生の拠点となるロッカーラウンジと学年ギャラリー

■内部空間の計画-④ライブラリー

○学校の中心に据えられ、多様な学びを支えるライブラリー

ライブラリーをラーニングパサージュに面し、アクセスのしやすい昇降口すぐの場所に配置する。こもれびのにもわにも面しており、内外連続的な利用を促す配置である。南側の多目的教室をメディアラーニング教室と位置づけることも視野に入れ、ラーニングパサージュを中心にこもれびのにもわ～だんだんのにもわまでを先端的な学びが展開する、学校の中心的な空間となるよう計画を深めていく。



ラーニングパサージュやこもれびのにもわと連続し、2階へも吹抜でつながるライブラリー

塩尻総合学科新校（仮称）再編実施基本計画（案）

1 再編統合対象校

塩尻志学館高等学校、田川高等学校

2 募集開始（開校）年度

令和（ ）年度

今後両校の学校規模の縮小化が避けられない状況の中、できるだけ早期の統合が必要であることと、施設の整備期間等を考慮し、令和（ ）年度を新校の募集開始年度とする。

3 活用する校地・校舎

塩尻志学館高等学校

新校が目指す学びのイメージである「地域を学びのフィールドとして、地域との共創を目指す学校」「多様な経験、学び、人との出会いを通して一人ひとりの可能性を広げられる学校」を実現することがより期待できる環境であるため、塩尻志学館高等学校の校地を活用することが適切であると考えられる。

4 設置課程・学科及び開校時に想定する募集学級数

全日制課程 総合学科 （ ）学級程度

※学科の名称は、今後編成する教育課程等に基づき、開校前年度に決定する。

※新校開校時の募集学級数は、毎年度定める「長野県立高等学校生徒募集定員」により開校前年度に決定する。

総合学科のシステムを使いながら、持続可能な社会づくりの担い手を育てていくための多彩な教科・科目を開設する。

募集学級数は、旧第 11 通学区の中学校卒業予定者数の推移や現在の募集学級数から、新校の開校年度には（ ）学級程度が想定される。

5 学びのイメージ

別紙のとおり

塩尻の豊かな自然や文化、ワインや果樹栽培、精密機械などの特色ある地場産業、そして産学官民が連携した多様な教育資源を活かし、生徒一人ひとりが自らの興味や関心に応じて学びを選択できる環境を整える。

地域と協働した実践的な活動や探究を通じて、進路の選択肢を広げるとともに、自ら課題を見つけ解決に向かう力を育む。

地域産業や人と人とのつながりを基盤に、好奇心と創造力を刺激するワクワクする学びを提供し、地域に開かれた総合学科高校の実現を構想する。

6 施設整備

新校の学びに必要な施設設備及び、高校施設の著しい老朽化と社会や学びの変化に対応し質的向上を図っていく。

・施設整備に要する期間 10 年程度を想定